

ディクティオロン 500

1. 名称と特性

起源:この製品は微結晶性のセルロースにパディナパボニカの自然の抽出物を含んでいます。

パディナパボニカ（リンネ）は海中の孔雀のしっぽとして広く知られており、藻類で地中海と大西洋に豊富に生えています。地中海では 6 月から 9 月に、水面から水深 60 メートルの深さの間に豊富に生えています。



その藻は自然生息地の中では純粋な白い藻として見えます。地下から初めて地表に現れた葉緑素という見解からそれは古代の藻です。したがってできるかぎりたくさん光にさらされなければなりません。なぜならその葉緑素はより高度に進化してきた植物の中で発見されたものと比べて効率が悪いものとなっているからです。この影響によってそれはその扇形の形（光を効率的にとらえることを可能にする形）を維持するためにカルシウムの骨組みを進化させてきました。

藻類は仮根のようなものを使って成長しており、それはほとんどの個体についています。葉状体は藻類の完璧な形を形成し、葉状体の上には葉や扇形のものを持っています。葉は成長過程では薄く平らですが、成熟した個体はラクティネイトを持っており、葉の縁には不規則な切れ込みのあるじょうご型の形になります。葉緑素にくわえて細胞は茶色い色素－フコキサンチンを持っておりそれが葉状体の見た目を茶色みがかったものにしていきます。

パディナ **パボニカ** はアラゴナイトの直方晶の形成において細胞壁の表面に炭酸カルシウムを形成した結晶を堆積する特性があります。そのような結晶は生物学的製剤の影響や、非常に的確な温度と圧力の状態のもと形成されます。アラゴナイトは真珠の母貝の主なミネラルの元です。

科学的分類

上位分類	クロムアルベオラータ
分類階級	不等毛植物
部類	褐藻
目	アミジグサ
科	Dyctyotaceae
類	パディナ
種類	パボニカ

特性特色

水中では	純粋な白
空気中では	白いシマのある緑
成長様態	めったに一つでは育たない
葉	一枚一枚ははっきりと別れていて中心を共有して細かく堆積している。上部と下部の表面は違っており全く別
縁	繊細、規則的、なめらかもしくは繊細な毛がある
乾燥すると	物質は植物性の白いシマを持った茶色に変色する

パディナパボニカの錠剤バージョン（食用）・・・ディクテオロン 500

錠剤や粉末は以下によって作られている

添加物：微結晶性のセルロース、二酸化ケイ素、タルク

錠剤仕様：錠剤は明るい緑の粉から作られる

物質的と科学的特性：一部は緑の浮遊物と共に水に溶けて、鉍産に溶ける

動物用－アルガブースター－動物向け

添加物：微結晶性のセルロース、二酸化ケイ素

動物用ではアルガブースターは餌の中にカルシウム摂取が要求され必要な動物に与えられるために既知数の炭酸カルシウムを加えている。

2. ディクティオロン 500 の製造工程

1. 採取現場の調査

2. 採取

3. 藻の乾燥

4. 藻の粉末化

5. 抽出物の加工

6. 抽出物の取り出し

7. 添加物への抽出物の追加

Step1 : 採取現場の調査

この段階は分析のサンプルを採取することによって採取場所の検査をする。A 許可が収穫する前に地方の行政から適用される。

Step2 : 収穫

これは収穫、洗浄、計量、そしてデータ収集を伴う。ごみやその他の物を取り除き、収穫されたかたまりから藻を 1 列に並べていく。

Step3 : 藻の乾燥させる

藻を製粉する前に完全に乾燥した状態にすることは必要不可欠である。

かたまりを紐でくくり乾燥重量と乾燥されたパーセンテージ（重さ）で統計上の成果や履歴管理を決定していく。

Step4 : 藻を製粉する

乾燥した藻は要求された粒子のサイズにまで粉碎される。製粉する工程が抽出物の処置を向上させる。

Step5 : 抽出工程

パディナパボニカの全体の抽出物はアルコールやアセトンの中で藻の植物のように成長する部分を解離することによって手に入れられる。

Step6 : 天然抽出物の濃縮

残留溶媒は蒸発によって取り除かれる；抽出物は室温で微結晶性のセルロースの上で真空蒸発によって定着される。それはフリーズドライされた植物の標準的な 500mg の中に通常含まれている含有量の有効な薬品を含んでいる。

Step7 : 最終的な製品の生産

精製された粉末は植物根で作られたタブレットに圧縮される。タブレットはパッケージの中に入れられディクティオロン（商業商標）というブランド名でバックされる。

似たようなものとして、動物用のアルガブースターの場合は、その製品はできる限り天然の状態の粉で動物の餌の中に混ぜられている。処方是个々によって異なる。比率は平均は 0.1~0.2 パーセントの間である。

3 安定性情報

検査状態：長期間と加速の両方をおこなった。

長期間の状態

気温 25 度プラスマイナス 2 度 湿度 60%プラスマイナス 5 パーセント
サンプリング頻度 3 か月に 1 回

微生物学検査 6 か月に 1 回

加速の状態

気温 30 度プラスマイナス 2 度 湿度 60%プラスマイナス 5%
気温 40 度プラスマイナス 2 度 湿度 75%プラスマイナス 5%
サンプリング頻度 3 か月に 1 度
微生物学検査 6 か月に 1 回
最終製品で安定性が達成された

参照方式

ヨーロッパ薬局方を参照した方法

2.2.24 吸光光度分析、赤外線

2.2.27 薄層クロマトグラフィー

2.2.32 乾燥減量

5.1.4 品質微生物学的否の品質－無菌の医薬品と医薬品

分析方法

特許法－パディナパボニカの薬剤のカルシウム代謝活性型の活性を確認する方法